

ほの研通信

第10号

平成24年5月

発行者ほのぼの研究所
〒277-0882
柏市柏の葉6-2-1
発行責任者
代表理事大武美保子

平成二四年度の取り組み

ほのぼの研究所は、平成十九年に、プロジェクトとしてスタートして、今年で五周年を迎えます。昨年度の福祉医療機構助成事業を通じ、地域、近郊、遠隔地において、共想法実施人材を育成することができるようになりました。得られた知見と実績に基づいて、今年度は、次の五年に向けた基礎を作ります。具体的には、以下の四つのことに取り組みます。

第一に、人材育成の核として、相互学習支援に取り組みます。具体的には、実施者および参加者同士が、お互いに教えあい学びあう仕組みを作ります。これまで、一部の担当者のみが実施してきた活動を、複数の担当者で交代しながら、皆で実施できるようにします。特に、ほの研ブログを通じた定期的な情報発信は、柏市近隣のメンバーと全国各地の実施者とチームを組んで、各地における共想法の実施の状況を、リアルタイムに報告できるようにします。第二に、持続可能な事業展開を目指して、財政基盤確立に取り組めます。具体的には、収入に占める寄付金の割合を高め、認定NPO法人化と、五年以内に事務所設立を目指します。ふれあい共想法による認知症予防事業を中心に、それを支える技術、サービスを、企業と連携して開発し、健康生活支援産業を生み出す推進力になりたいと考えています。第三に、新産業は日本国内に留まるものではなく、

未来社会全体を見据えたものであることから、国際共同研究に取り組みます。共想法による認知症予防の理論的、技術的、学術的基礎を固めます。インターネットを通じて、遠隔操作ロボットを用いて、日本の実施者が海外での共想法の司会を行う実験を予定しています。第四に、柏市社会福祉協議会の支援を受け、共想法が福祉医療介護サービスとして活用されるよう、介護予防施設、介護老人保健施設、小規模多機能型居宅介護施設、病院での実施を通じ、昨年度に引き続き、実施人材育成に取り組みます。平成二三年度に始動した、長崎、埼玉、茨城での実施研究を支援すると共に、新たな実施研究拠点の設立を支援します。

代表理事 大武美保子

平成二三年度十大ニュース

平成二三年度も、盛りだくさんの一年でした。一部はほの研ブログ、ほの研通信でお知らせしましたが、ここに十大ニュースとしてまとめます。

- 一、共想法入門、継続、研修コースを開講した
- 二、出前講座を十件実施、秋山柏市長を訪問して、共想法の実演を行った
- 三、長崎、埼玉、茨城で研究拠点が本格始動した
- 四、ロボット研究員「ほのちゃん」がクリスマス講演会で、瀬名先生と大武先生の対談司会をした
- 五、人工知能学会(盛岡)に参加して発表、審査に合格し、卒業の認定を受けた
- 六、国際回想法とライフレビュー学会(ボストン)において共想法の発表と、学会の中継をした
- 七、赤い羽根の助成による記念講演会を開催した

八、共想法を紹介する動画を制作した
九、共想法及びほのぼの研究所の商標登録が認可された
一〇、共想法に関する世界初の書籍「介護に役立つ共想法」が出版された

広報担当 根岸勝壽

長崎北病院訪問記

軽度認知症の方を対象とする脳リハビリを目的として共想法に取り組んでいる、長崎県西彼杵郡時津町にある長崎北病院を、平成二四年一月に訪ねましたのでここに報告します。

七階建ての大きな病院で、病院を入ると広い待合室があり天井が高い吹き抜けになっています。見上げると三枚のステンドグラスが明るく輝いています。待合室は時折音楽ホールとなり、音楽会が開かれお客様は入院患者さんやご近所の方々でとても評判が良いそうです。



長崎北病院玄関 外↑↓内



病院は建て替えられて四年ほどになり、内科・呼吸器科・循環器科・神経内科・リハビリテーション科・放射線科などがあります。三階から上は主に入院室で一階は受付と各科の診療室、二階にリハビリテーション室があります。

特に印象が強かったのはリハビリ室で、広いその部屋は一面が広い窓で明るく開放的でした。五、六十人の患者さんが機能訓練を受けていましたが、全ての患者さんにマンツーマンで作業療法士さんが付き添っており、十分に目が行き届いているのを感じました。



スクエアステップ

入院室の前の廊下に「スクエアステップ」の張紙があり「足の踏み出し・バランス転倒予防・認知機能の向上」と効能が書いてあり入院患者が練習できるように廊下の床にステップのまです目が書かれていました。

トイレは左麻痺優先トイレと右麻痺優先トイレがありそれぞれの人が使いやすいように手すりが付いています。この「脳リハビリ外来」では外来に通う患者さんを対象に木曜日と金曜日に共想法を実施しています。脳トレーニングを早い時期から行うことで症状の進行防止を図る



トレーニング室での共想法

のを目的としています。リハビリ対象となる共想法は医療保険扱いです。患者さんは病院に着くと看護師による健康チェック・医師による診察・リハビリ(個別の学習療法、脳活性化トレーニングなど)レクリエーション

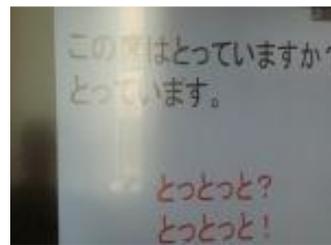
(体操、園芸、料理等)が行われ、昼食をはきんで午後か

らは個別の作業療法、ゲームなどを実施しています。作業療法士三名、理学療法士一名、看護師一名、看護助手一名のスタッフが注意深く見守っています。厨房のある明るいつレーニング室にはテーブル二つと肘掛のついた椅子があり、隣には畳敷きの休養室があります。この部屋では共想法も行われます。

患者さんの共想法セッションを見学しました。木曜コース、金曜コース共にテーマは「お正月の遊び」です。スクリーンに向かって参加者がUの字型に席に着き、司会者、副司会者がスクリーン側に左右一人ずつ座り、参加者に向き合う形で進行します。司会者は「今から共想法をします。白板に書いてある漢字です。」と患者さんにこれからすることを認識してもらいます。フェイススケールには6つの顔の表情が書かれており、今の自分の気持ちに合う顔を選んで丸をつけてもらいます。プリントが渡されて全員が声を揃えて音読、次に早口言葉の練習をします。発声練習をして声や言葉が出やすくなるのがねらいです。

先週自分が写真を撮ったのを忘れてしまった人、言葉が上手く出ない人、こだわりの強い人、よくわからないと笑ってごまかす人などさまざまな特徴のある患者さんですが、司会者・副司会者の助言で言葉が引き出され話の輪が広がっていきます。参加している仲間の問いかけを聞いて話を順調に進めていく人もいます。また、先週一緒に撮った写真をすっかり忘れた参加者に思いだしてもらったために、スタッフは小道具を会場まで持って行きます。参加者は、自分のテーマの道具を手にとって見ながら説明し、実際に使ってみせる方もいます。司会者は共想法が始まるたびに、同じ言葉を繰り返して参加者を促し、時に励ましなが

う点です。長崎弁を標準語に・標準語を長崎弁に・文字の並べ替えラステカ↓カステラ、これは文字数が増えるとかなり難しくなります。そして長崎の観光名所巡りを映像で見ました。今日のリハビリは、私たち三人を歓迎してくださるサービスメニューだったようで楽しく見学させていただきました。



長崎の方言「とつとつ?」



奇岩「鯖くさらかし岩」

体操を一緒にしました。椅子に座ったまま足首を曲げ伸ばし、左右に首を振る運動をします。次に椅子の背につかまって立ち、体を反らしたり片足を上げる運動は、筋肉をほぐしてリラックス出来ます。体操は少しの場所があれば出来るのを知りました。

昼食は、同じテーブルで患者さんと同じお食事をいただきました。



昼食→

きました。季節の食材を使った献立は薄味の健康食です。里芋のゆずみそあんかけがとてもおいしかったです。ごはんを残す人もいましたが、ほとんどのの方がきれいに食べていました。(フルーツも付いて三〇〇円也)

辻畑名誉院長、脳リハビリ

外来の看護師長、脳リハスタッフの皆さんの前で大武先生が新システム紹介をしました。A5版ほどのタブレットを持った司会者の先生と、参加者の土井さんが遠隔で交信します。今日の共想法のテーマは「好きな動物」開始日時と経過時間が画面の右手に表示されます。参加者は他に小柳さんと田口、記録者は林さんの構成で、場所は長崎北病院です。新システムでは拠点と地方が繋がり遠隔交信が出来ます。



新システム→

初めて参加の土井さんはタブレットを上手に操作して折り紙のカエル（展覧会場に展示）をモニターに写しました。さまざまな地域にいる参加者がスクリーンで顔を合わせて共想法を行う夢が現実になるのです。

林さんは『会話における応答特性の分類』をパソコンを操作して画面に写し説明をされました。林さんは北病院で行われた共想法のビデオの文字おこしをして参加された特定の人の言葉を一つ一つ分析して論文にまとめられました。大変な作業だったと思います。観察から、会話の反応性は高いが内容の深い理解までは出来ないタイプ。一つのことに考え込んでしまうので一部の話題にしか反応できないタイプ。いつも同じ話を繰り返すタイプ等に分けられるそうです。



研究紹介→

会話に於ける各タイプは認知機能の低下部分に関係があるのではないかと考えておられるようです。

長く共想法にかかわっている脳リハピリ外来の三人と長崎の市内に出て、郷土の名物「長崎卓袱料理」をご馳走になりました。丁寧でおいしいお料理にホッとしたり嬉しかったです。



卓袱料理→

最終日は快晴で、西海観光を大武先生が希望され、辻畑先生、土井さん、小柳さんが車で案内してくださいました。始めて見る西海、美しい海岸線の向こうに幾つもの島が見え隠れする。パトカーが先導するように私達の車の前を行くと思つたら一本道でした。

ド・ロ神父記念館を訪ねました。「フランス人の神父は一八六八年（慶応四年）二八歳で来日、宣教師としてだけでなく、石版印刷技術を伝えるために来られました。七四歳で亡くなるまでの四六年間を日本で過ごし、その間、外海地方の産業、社会福祉、医療、移住開拓、土木、建築、教育文化などに奉仕されました。」と説明を受け、幅の広さに驚きを隠せませんでした。神父ゆかりの出津（しづ）教会に立ち寄りしました。遠藤周作文学館展示室はついでゆっくり浸つてしまおう



出津教会→

ほど魅力的でした。氏の作品「沈黙」は此処、外海（そとめ）が舞台です。半日の観光時間はあつという間に終わりました。それでも花より団子で「長崎名物トルコランチ」

なる昼食をおいしくいただき、お世話になったご挨拶もそこそこに急ぎ一路時津港へ。時間ぎりぎりの船に飛び乗り、長崎空港に向かいました。人の温かさに触れ、たつぷり研修させていただいた長崎北病院、ちよつぱり観光した長崎外海地方は心に残り本当に素敵でした。

研修に参加出来た「健康」に感謝しています。

市民研究員 田口良江記

今日の共想法

今までの共想法で取り上げられました話題をこの欄を借りまして紹介させて頂きます。面白い話題、ユニークな話題を集めてみました。

サイズ比べ

継続コース…KUさん

母と子の靴です。右側のスニーカーは息子の靴で、左のブーツは私の靴です。息子の靴は大きいので、友人のお母さんは「舟みたいね、アハッ」と楽しそうに笑います。東日本大震災で履物は足りているでしょうか？ 私は、災害が起きて履物に困った経験が有ります。足に合った靴を履いていますか？これからも支援して行きましょう。

コメント…YSさん

足は第二の心臓と言われます。ピッタリ合う靴がないと思うように動けません。私は靴屋さんで気に入った靴を買う事が出来ませんが、震災にあわれた人は瓦礫の上を走り回るのに、果たして足に合った靴を履いていらっしゃるかが気になります。



幻の竜の貼り絵

継続コース・TYさん

暮れに介護施設で、辰年に向けて壁に飾る絵を作りました。インターネットから頂いた画像を拡大し、四つにわけてコピーし四グループにて、貼り絵を作ってもらいました。私はなかなか良くできた！と思って飾ったのですが、大嫌いな蛇を連想するからダメ、という声が聞こえました。蛇を嫌う人は割合に多く、とつてもいやがります。これが二人だったのも、もしかしたら言えない人もいるのではないかと思います、その日のうちにはずしました。



コメント・YSさん

とても可愛らしい龍ですね。私もへビは嫌いですが、へビよりも鹿やキリンに見えます。折角貼り絵を作ったのですから作り直して飾っては如何でしょうか？

代表理事千葉大学移籍と事務所移転

平成二四年四月十六日、当研究所大武美保子代表理事が大学を移籍し、千葉大学大学院工学研究科人工システム科学専攻機械系コース准教授に就任しましたので、ご報告します。

本拠地は千葉大学西千葉キャンパスとなります。今回初めて正式の任期なし(テニユア)となりました。これにより研究を継続性をもって発展させることができます。びつくりされることと思いますが、現職の方が研究者としての契約条件が格段によいので、移籍することになりました。

五月一日より、千葉大学柏の葉キャンパスにある環境健

康フィールド科学センターを兼務し、千葉大学柏の葉キャンパスにも拠点ができました。これに伴い、ほのぼの研究所も千葉大学柏の葉キャンパスに引越することになりました。此処で腰を落ち着けて認知症予防の「ふれあい共想法」の発展に邁進したいと思います。

関係各位の皆様、益々ダイナミックに研究を推進して参りたいと思しますので、ご指導ご鞭撻の程、どうぞよろしくお願い申し上げます。

ほのぼの研究所移籍記念講演会のお知らせ

来る七月三日(火)ほのぼの研究所は移籍記念講演会を千葉大学柏の葉キャンパス シーズホールにて一三時三〇分開演予定、横手幸太郎・千葉大学大学院医学研究教授、千葉大学医学部附属病院副院長、宮崎良文千葉大学環境健康フィールド科学センター教授を招待講演者に迎え、開催することになりました。皆さま奮ってご参加ください。

書籍「貢献する心」出版

平成二三年七月一六日に開催されたシンポジウム「貢献する心」の生物・文化的起源と将来」を元に制作された書籍が出版されました。

”やさしさ、思いやり、利他心……。他者とながら、助け合うことに喜びを見出すヒトの特性をめぐり、哲学者、文化人類学者、科学者、作家等六名が分野を超えて語り合う。討論会を含む全七章。”と紹介されています。

第三章で、ふれあい共想法の説明を通して、サービス工学の観点から貢献する心について議論しています。

(目次)

第一章 上田紀行 「お互いさま」の絆をむすびあう
第二章 瀬名秀明 ロボットは貢献心をもつことができるか

第三章 大武美保子 視点をつなぐ「ふれあい共想法」
第四章 谷川多佳子 ライブニッツの互恵の哲学

第五章 長谷川眞理子 他者を思う心の進化…共感と幻想
第六章 大橋力 協調的世界像の起源

第七章 【討論会】 震災後に語り合う生命と貢献心



上田紀行、瀬名秀明、大武美保子、谷川多佳子、長谷川眞理子、大橋力…貢献する心―ヒトはなぜ助け合うのか、工作舎、二〇一二年

今後の予定

*五月開講 入門コース、五月八、二二、六月一二、二六日

継続コース、五月一五、二九、六月五、一九日

*出前講座 随時

*七月三日 ほのぼの研究所移籍記念講演会

問合せ、申込みはメール又はFAX (04-7172-6704)

編集後記

ほのぼの研究所は、活動を開始して丸五年になります。今年、事務所を移転し新たな気持ちで踏み出しました。これからドラマチックな展開が予想されます。

大武先生も、テニユアでの船出です。皆さまこれからも宜しくご指導のほど、お願い致します。 編集子